

伝統的に医学部の講座は基礎医学、臨床医学（内科系、外科系）と関連して細分化してきた歴史がある。最近、大学の医学部に「寄付講座」なるものが開設されるようになり、それが地域医療の多くの課題の解決に重要な役割を果たしているため紹介したい。

「寄付講座」であるため、寄付行為は難題を抱える地方自治体であることが多いが、法人組織や個人であることもある。

岡山大学医学部の事例を紹介する。大別すると地域医療に関する部門と先端医療に関する分野の寄付講座がある。臨床部門に「総合診療医療学講座」を設置し、各々の地域、あるいは課題に対して専属の講師と担当スタッフが配置されている。

地域医療の課題に関連した講座として（１）地域医療人材育成講座、（２）地域救急・災害医療学講座、（３）岡山県南東部（玉野）総合診療医療学講座、（４）岡山県南西部（笠岡）総合診療医療学講座、（５）岡山県西部（新見）総合診療医療学講座、（６）瀬戸内（まるとめ）総合診療医療学講座がある。

先端医療分野では、（１）先端循環器治療学講座、（２）CKD・CVD（腎・心臓・血管）地域連携包括医療講座、（３）救急外傷治療学講座、（４）陽子線治療学講座、（５）血液浄化療法人材育成システム開発講座、（６）運動器外傷学講座、（７）高齢者救急医療学講座、（８）実践地域内視鏡学講座、（９）災害医療マネジメント学講座などがある。

沖縄県においては当面、本島北部基幹病院構想と離島の医療に対する課題がある。喫緊の課題ではあるが、岡山大学に比して守備範囲が狭いことと、中・長期的展望と持続する対応策の検討が求められる点から考慮すべきと考える。

琉球大学医学部に、寄付講座としての「総合診療医学講座」が開設され、地域医療の課題に対して、常時、対策を検討する部門を設置し、人材を配置および育成することが必要と思われる。医療が専門分化する中で、少子高齢化社会の到来は、地域医療における総合診療部門の位置づけが注目されている。

岡山大学の講座は、岡山県の枠から瀬戸内海全地域と山陰地方を視野に入れての対応であるとともに、時代を切り開く先端医療をも担う姿勢が示されている。

かつて、重粒子線治療施設の誘致についての検討がなされたことがあった。長期的には、観光立県としての視点と沖縄県の地域医療の量と質を考えたときに、日本の南の玄関として、アジア諸国をも視野に入れた展開も検討に値するものと思われる。

「寄付講座」の動向が、地域医療の新たな展開となる可能性を秘めている。参考になるのではないかとの思いから、事例を紹介し、老健施設の窓から一考を試みた。

（2019年11月5日 琉球新報 論壇）